



輝かせ、真の光を

第33回卒業式

第33回卒業式が去る二月七日日曜日に二七名の卒業生が「洛星で学んだキリストの教えを人生の糧とし社会に生かすように」とのラバディ校長の言葉に送られ、母校を後にしていった。



卒業生へ

グエタン・ラバディ校長



等、数多く思い出されることとしよう。思い出の中には、楽しいことも多いでしょうが、又悲しいこと、寂しいこともあるでしょう。それらを経験したことによって、皆さんは今日のように成長できたのです。これから人生にも楽しいことも悲しいことも、成功も失敗もあるでしょう。しかし、どちらの立場になっても自分の心の平和を失わずに、対処出来るとすれば、それが本当の大人になることなのです。今すぐ社会の責任者になることは出来ませんが、心の中で、私ならばこのようにやりたいという考えを持ち続けて下さい。アメリカの大統領であった

リンカーンは若い時に「いつか私が大統領になったら全力を尽くして奴隷制度を廃止する」と言ったのです。彼はその約束を守りました。リンカーンは信仰深いクリスチャンでした。皆さんもキリストの教えをよく知っています。皆さんは兄弟です。『お互いに愛し合いなさい。』最も小さい者たちのひとりにしたことは私にしたことになるのです。など、そして洛星で学んだ心の糧を一生忘れないで下さい。

本日、卒業証書と一緒に、贈る言葉を渡します。その言葉は聖書から引用したマタイによる福音書5・14・16です。『あなたは世の光である。あなたの光を人々の前に輝かしなさい。そうすれば人々はあなたの良い行

卒業生記念号

発行
洛星新聞局
京都市北区小松原南町
(463) 3281 (代)
印刷/南片桐印刷

自分らしく生きよう

H IIIA 担任 花房克生



33期生の諸君、ご卒業おめでとうございます。君達めどうも。君達は父である神の教えと、人生の意味をよく理解している。そのために世の光であると言え、その教えを自分の周囲に生かせるならば、皆さんの行ないは真の星として輝くことではないか。簡単なことではありませんが、社会生活においても徐々に兄弟を良い方へ導くことが出来るでしょう。皆さんの信念はキリストの教えです。どんな問題にぶつかっても、それをのりこえる為にその教えを思い出したならば必ず良い方向に向いていくだけなく、あなた方は皆さんから良いリーダーとしてむかえられるでしょう。今日の社会においては、国においても会社においても本当のリーダーとして活躍できる人は大変少ないと思います。その理由の一つとして、彼らには自分の信念がなく、日和見主義者にすぎないからではないでしょうか。社会に国に、世界に対して自分の持っている理想を、いつまでも大切に持っていてほしいと思います。世界と社会が皆さんを待っているのです。これから皆さん一人一人に与えられている使命を見つけ、成功するようにがんばって下さい。皆さんは一人一人がユニークであり、社会の中では他の人と代わることを出来ない大切な役割があることを忘れないで下さい。皆さん、顔をあげて前を見て下さい。本当の社会の塩と光になって下さい。私は皆さんの将来が真の光として輝くことを祈っています。

卒業おめでとう

H III D 担任 村上哲哉



土井清司君卒業おめでとう
深尾雅章君卒業おめでとう
原田洋次君卒業おめでとう
服部則之君卒業おめでとう
今村裕一君卒業おめでとう
井上 聡君卒業おめでとう
石原健一君卒業おめでとう
岩崎吾郎君卒業おめでとう
角橋高史君卒業おめでとう
上村考由君卒業おめでとう
片山 聡君卒業おめでとう
加藤正幸君卒業おめでとう
河原健策君卒業おめでとう
川崎浩司君卒業おめでとう
國廣恭行君卒業おめでとう
黒谷賢一君卒業おめでとう
森川 岳君卒業おめでとう
守本 毅君卒業おめでとう
森宗宣君卒業おめでとう

共に勉強して

H IIIB 担任 田中成彦



この原稿を書いているのは、いわゆる「大寒」の頃で、丁度諸君が国立公立大学受験校をどこに決定しようかと考えていたときです。気候も心境も一番辛く厳しかったときだと思います。でも陽光は日差しに暖かさを加え、この春の息吹がそこそこ感じられるようになってきたことに感じられるようになります。諸君の心境もまたそうであることを願っています。この二年間、諸君とは主に「世界史」を通じて関わってきました。世界が大きな

担任より卒業生諸君へ

祝 辞

H IIIE 担任 丸山 貞



三十三期生諸君、御卒業御出度。新任教師として勝手分かれこの学校に来た私が、諸君のうちの三分の二と担当として出会うから六年が過ぎたことになる。諸君が卒業すると、全ての生徒が洛星において私より後輩となる。今この慶びの時を迎えてみれば、全ては平穩無事であったかの如くだが、この洛星の時間を共有した六年間乃至三年間は、諸君にとっても私にとっても決して平坦なものではなかった

もつと役立たないことを

H IIIC 担任 山岡 聡



昔から人は人生の初めの三分の一は遊んで過ごしてきた。現在人生八十年とすれば二十六、七才まで。君たちの多くはこの七、八年自分に役立つことばかりを追及し過ぎたのではないだろうか。結果的に役立たなかったことは多かつたろう。人生の初めから間違ってしまったといえる。だから、それを取り戻すためにこれから十年程は役立たないことばかりを追及してみよう。高一の授業で学んだマザー・テレサは、「愛」の

H IIIF 担任 赤澤和夫



新テスト、分離分割、A日程B日程、足切り、これらに驚くものではないといながら、充分な指導もできぬまま諸君を送り出すことになった。諸君が卒業すると新しく入学して来る中一は、三十九期生である。洛星もそろそろ四十才になるうとしていくのである。三十九年前といえば、私は高校の一年生であった。その頃からヴァイオリンを習い始め、そのままだ部長音楽部と共に三年間を過ごして卒業となった。高校時代の懐かしさに、ふとそのころのアルバムを開いた。

反対語は「憎しみ」ではなく「無関心」だといった。関心をもちたい。愛だとするなら、その対象にはいろいろあるだろう。でも、自分や自分の周囲のことに愛をもつことは、三十才近くになって仕事や妻子をもって社会に役立たざるを得なくなってきたことにしよう。今しばらくはできるだけ自分から遠いことに関心をもちたい。膨張する宇宙の果てのことでも、原始時代の音楽のことでも、アフリカの子どものことでも、北京の学生のことでもよい。我を忘れてそこに没頭することだ。マス・メディアという「暴君」に騙されたり、押し潰されたりしないために、また人生最後の三分の一を再び遊んで暮らすために、しばらくは役立たないことを思い切り愛して欲しい。本当にご苦労さまでした。紙の色も大分変っているし、もちろんカラーのページなどあるはずもない。確か値段は五百円ほどだったと憶えている。卒業式の日には良い天気で、友達四人、五人と自転車に乗って屋島あたりまで走り回った……。思えば、大変な年月が経ったものである。使い古された言葉ではあるが、行く河の流れが君達であるならば、私達はその河の流れに一時の影を映す岸辺の柳でもあるだろう。か。やがて河は水を増し、ゆるやかに成長しながら大海へと入り込む。ただ私は小さな水の一滴で、次々と目の前を流り過ぎてゆくのを確かめては、我が影の水の流れに沿って残ることが、まもなくを残念に思うばかりである。私も、その昔は、河の流れの一滴であったことを思う時、君達が無事大海にたどり着き、希望の岸辺を発見されんことを心より希望するのである。

卒業生の一言

A Class



勉強せずともテストを受ければ受験生。宮崎 潔
もう少ししめをつけた方がよかった。永谷幸裕
日本の右傾化に歯止めをかける！ 成田耕一郎
後悔しないよう今全力投球しよう。新藤成実
高校時代は人生で一度きりだから……。西 順也
「GOING MY WAY」 奥田耕司

受験生一年過ぎて浪人生。奥谷理志
時間と友達と夢を大切に生きていきたい。迫田 学
洛南や東大がなんぼのものじゃない。佐々木輝夫
楽しい6年でした。今後も頑張ります。佐藤篤
明日への希望に胸をふくらませ。ボカン！ 陳 豊史
人生万事、塞翁が馬。榎本知宏
後輩の皆さん、体には気を付けて下さい。藤原正明
人生、之ヲ楽シク過グルニマサル事無シ。一山卓治
洛星はええ学校や。井上工作
感謝感激アメとムチ。泉井朋久
兎と亀が競走する。僕は亀でありたい！ 神谷 岳
チャンスは確実につかめ！ 神田敏克
友人を増やすことができて良かった。木村泰宏
やっつと、ジェイルハウスから出られるぜ。鬼頭慶二
洛星生活を有意義にする宗教に出よう。近藤啓太郎
自分にあった生き方をしよう。高津文人
忘却神経のメケメケ野郎とは、俺の事だ。黒瀬義敏
おれの3年間はなんだったんだらうか。栗村尚宏
人間万事塞翁馬(二)次ぶり返すぞ。松井裕人
トゥリオーソフ、トゥリオーソフ、トゥリ。宮下和幸
最高の学校だった。宮崎英二

B Class



己である。と 藤井 元
一生の友達こそ最大の宝だと思ふ。藤原 拓
僕は6年間で25センチ大きくなりました。花登弘和
嗚呼、愛しの洛星！ 平尾和之
この三年間を今後の貴重な経験としたい。本田信一
転がる石のように……進んでいきたい。茨木創一
高3はやはり骨が折れた。今村重義
過去の事実は事実かどうか分らない。今尾公二
やる気になれば何だってできるのである。加藤文弘
星となって洛星を見守るか………フツ。北原 徹
………フツ。北原 徹
最大の収穫。小林哲郎
この六年間の生活に悔いは

一球入魂。有村 直
良い結果は高い志から生まれるものだ。栗野達也
自らを生かすは他者であり、

IN RECORD SINCERITAS

C Class



レッツ ダイエット！ 山中孝師
洛星高校万歳！ 渡辺 光
日本の軍国主義化反対！ 栗 栗
長いようで短いようだった。松浦祐紀
仁義礼智信孝悌誠貞賢良志孝明直悟快。森 豪
六年で何もできなかったような気がする。西村修輔
三年間、色々お世話下さった方に感謝。落合直也
そこに鋼鉄の意志あらば、叶わぬ夢なし。岡田敏樹
今の瞬間の自分を一番大事にしたい。岡崎太一郎
姑く妄りに之を言え、姑く之を聴かん云々。長村英俊
人生は、格闘だ！ 松本啓光
星が落ちてしまふ前に旅立ちます。佐野 洋
三年間、あつという間にお世話になった。藤 秀夫
洛星はええとこやった。ほろまに。澤田守男
青春は美しい。菱本明豊

ええ十八歳。山口寛二
男子校ってなんて平和なんだろう。横山 剛
やっぱ入学しなけりゃよかった、ここ。吉川正人
6年間の楽しい思い出をありがとう。吉川徹二
長い間、どうもありがとう。吉見太志
ラッセイはみなさんともなう。吉本 稔
男子校から脱出。とても、うれし。

D Class



洛星での三年間は輝く星のごとし。黒谷賢一
満足のいく学生生活が送れました。守本 毅
そのうちなんとかなるのかなあ。森宗宣
洛星の六年間は僕を成長させてくれた。森下浩行
ずっとこのままの年齢でいたい。村田貴文
高3になる前は沢山遊んでおくべきです。中野英樹
人生「苦」もあり「楽」もある。中野龍平
酒と涙と女と蹴球。高校時代は難しかった。中津剛史
これでまた、一歩野望に近づいた。西 崇男
卒業しても明るく楽しく生きていきます。西 輝樹
長い三年間の修道院生活もやっと終わる。野原 暢
主体性をもって生活するよ。野谷 剛
人との交わりの中で何かを見つけてよう。奥村憲二

E Class



で取りくもう。岡崎大無
人生の勝利者になって見せる。吉藤陽一
早く大学行って遊びたい。坂井正孝
伸び伸びと自分自身でいれたい。佐久間隆
冷めた時、その人はそこに存在しない。佐野就平
自分に厳しく他人に厳しく。杉本圭一郎
鼓膜を引き裂かねば聴こえない音もある。高橋祐嗣
木鶏の気位を持ちたい。高野裕幸
ひねもすの 想いも虚しく霧の中。谷野文紀
朝は余裕をもって登校しよう。上田昭夫
心の中にいつも光を絶やさないように。山部裕之
その時々において、完全燃焼しよう。山田康裕
男はいつも義理と人情の板ばさみ。山本知一郎
やっつと社会復帰できるのが嬉しい。吉田哲也
らくせいの 一つのまにかおもいでに。吉平弘一郎

F Class



洛星の3年間は一生記憶にのこるだろう。阿部清範
〇△×!? 舟山桂介
捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ。五味禎祥
洛星での様々な経験は良い財産になった。平野 良
洛星は外から決して見えないうーとピア。平瀬潤也
洛星での友と神の御加護を大切にしたい。井上 学
ニヒリズムからの脱却が幸福につながる。伊藤憲二
勉強だけでなくクラブにもがんばれ。岩佐真之
信頼できる自己を確立しよう。総谷泰史

捨てる神あれば、拾う神あり。岡崎大無
高校生活、たかが人生の一部されど人生。北山篤平
自分で始めなければ、何も始まらない。丸山裕史
三年間で六回しか、女の子と喋れず……。松原 渉
六年お世話になって有難うございました。松本 孝
洛星で良き友人が得られたと思ふ。南沢英電
たこのような高校生活で恋人や多くの友達を大学で見つけよう。中川桂 郎
ALL I NEED IS LOVE 仁張雅史
洛星で得るものは、一生の友なり！ 岡本真一
なるべく妥協せず自説を押し通したい。大浦邦康
チャンスに強くなれ、弱い時にこそ。坂井佳史
よき思い出を心に留め、ひたすら前進。佐藤真人
オケ部のますますの発展を願っています。小司敦彦
きちんと卒業できてとてもうれしいです。高橋史人
LOOK WIDE——視野を広く持て。竹村健太郎
我は我後彼、されど仲よく、皆に感謝。田村高明
カンネンカン……ナントハヤイモノカン。谷口哲也
受験は自己変革の契機だと思いたい。立木秀浩
此比高直ニハヤル物。運刻足切り志望塾。辻 英史
洛星も永遠なれ！ 恒川敦宏
21世紀も母校が京の星としてあるように。植田泰輔
僕は洛星の歴史の一項になれたと思ふ。上町 透
悔い無き哉、我が洛星の青春。長 政典
幻想ではない高い理想を持つて。山田欣幸
自分にもっと厳しく、忠実に。山口幸一
卓球部の皆様、OB戦で再会しましょう。安見唯紀
終にゆく道とは予て開きし。吉見隆史
正直に努力すれば馬鹿を見ないはずだ。吉村昌浩

新テストレポート

猫の目のように変る入試センター試験をHⅢF上町さんと卒業生の津田さんにレポートしていただいた。



HⅢF 上町 透

新テストについて何か書いてくれと頼まれて悩むと数十分。立場上弱い受験生のこと、受験制度に文句を言ったって始まらないし、将来ライバルになるかもしれない諸君にアドバイスをする自分の首をしめることになるし。(情けない)まあ諸君にも私にも害にならないところをちょっと書いてみましょうか。

学校は三時間目まで授業があつて四時間目はHⅢF翌日の試験の説明などをしていただいた。英語の中山先生が時々ジョークをおっしゃるのだが、たいしたことのないものにも皆いつもより大げさに笑うのは緊張

学校は三時間目まで授業があつて四時間目はHⅢF翌日の試験の説明などをしていただいた。英語の中山先生が時々ジョークをおっしゃるのだが、たいしたことのないものにも皆いつもより大げさに笑うのは緊張

学校は三時間目まで授業があつて四時間目はHⅢF翌日の試験の説明などをしていただいた。英語の中山先生が時々ジョークをおっしゃるのだが、たいしたことのないものにも皆いつもより大げさに笑うのは緊張

学校は三時間目まで授業があつて四時間目はHⅢF翌日の試験の説明などをしていただいた。英語の中山先生が時々ジョークをおっしゃるのだが、たいしたことのないものにも皆いつもより大げさに笑うのは緊張

学校は三時間目まで授業があつて四時間目はHⅢF翌日の試験の説明などをしていただいた。英語の中山先生が時々ジョークをおっしゃるのだが、たいしたことのないものにも皆いつもより大げさに笑うのは緊張

もりのないのだが。

(二日目の朝の新聞)

見るな！私は一日目の数Ⅱでミスった。だから「いつもより難しい」というコメントが載っていること

みんなが翌日学校でやる。ときどき悲鳴をあげる人がいる。これはいいのだが、

「よし、数学満点。」などと言う人がいたりすると、もう絶交！なんて思う。

試験の終る鐘の音。諸君無常の響きあり。顔面蒼白の顔の色。意者必敗の理を表す。意ける者は久しからず。ただ春の日の落桜の如し。

これでいまいましい過去の回顧は終わります。

余る時、その他解答欄に適合しない時に使用される。解答欄が二桁なら、普通は正解も二桁なのだが時々*を入れるのが主解の時がある。だから計算して一桁の解答が出てきたら計算間違いなのかそれとも*を入れたのか、出題者の立場も考えて一往たり悩むことになる。センター試験ではその*マークが無くなったのである。解答欄が二桁なら正解も二桁である。きれいである。気になるのは欄だけで、もはや出題者を意識する事はない。

近頃、人々はほとんど無機質化しようとして奮闘している。付合も様々なメデアを使って記号化している。そうした風潮の中でマーク式という元々無機質な解答法に加え出題までも無機質化しつつあるセンター試験は不滅のものとなる。

学校は三時間目まで授業があつて四時間目はHⅢF翌日の試験の説明などをしていただいた。英語の中山先生が時々ジョークをおっしゃるのだが、たいしたことのないものにも皆いつもより大げさに笑うのは緊張

ANGLE 32
ハンドボール部 ⑬

一九八九年九月一七日、高校私学総体ハンドボール決勝リーグ最終戦。入った二点着。湧き返るベンチ。コートの中の顔も、勝利への喜びに溢れている。五、四、三、二、一……。洛星ハンドボール部は、ここに十年振りの優勝に返り咲いた。



平成元年度 私学総体優勝

洛星ハンドボール部は、昭和二十七年、洛星創立と時を同じくして産声を上げた。当時まだ大学生であった小西博喜先生の、並々ならぬハンドボールに懸ける熱意により、洛星の名は瞬く間に、京都のみならず全国の中高ハンドボール界に広まった。三十二年にIH(インターハイ)初出場。三十三年には、中学生が府大会一般の部に出場し、強豪同志社大を相手に、十五対八と圧倒的勝利を挙げた。三十年代は、伏見工と共に二強の伯仲する時代であり、洛星は、国体を始めIH等多くの大会に出場し、IH準優勝を最高として好成績を収め、強豪洛星の名を欲しいままにした。現在コートとして指導していただいている、林・石井・山口という諸先輩は、まさにこの頃のメンバーであった。しかし、四十年代に入ると、東山を中心とした諸校の追撃にあい、また小西先生が退職されたこともあって、洛星のかつての爆発的な強さは勢いを落めた。しかし、仙元・奥本両先生やOBの方の指導の下、大会

では常に上位に名を連ね、中学高校とも、近畿大会にも幾度となく出場し、洛星は未だ健在であった。

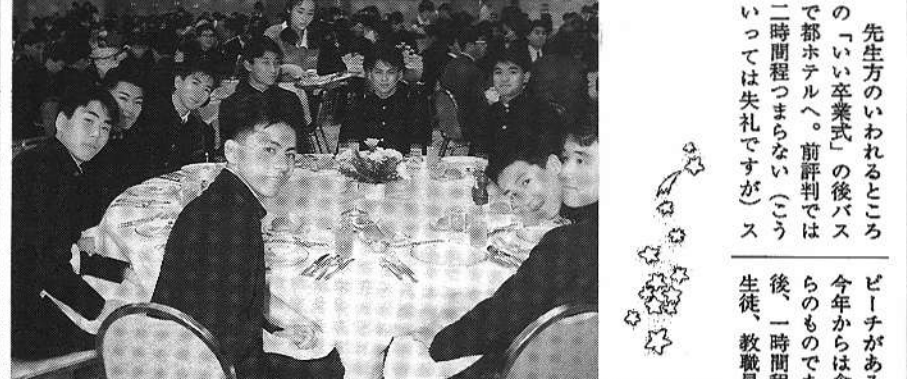
五十年代は新興チームの時代であった。公立・私立とも、そのレベルアップは目覚ましく、洛星も容易には勝てなくなった。その上さらに追い討ちを掛けるかのように、受験戦争の激化・早期化が進み、高三の夏までプレーすることが難しくなった。入学して来る生徒の体力も下降の一途をたどり、他校に比べて体力的に恵まれているといえなくなつた我が校が、技術的にもハンドを背負うことになった訳で、中学は五十六年、高校は五十八年を最後に、一時期洛星の名は京都のハンドボール史から姿を消した。

中学時代にはそれほど目立たなかつた選手が、高校に入ってから急に大成することがよくある。中学時代にはまだハンドボールを自分のものにすることができず、正直なところただやうに選んでいただけ、という感じの選手が少なくはない。しかし、高校になると、自分なりのハンドボールをものにして自分にとってハンドボールとは、クラブとは、という解答を見つけて出し、自覚をもってプレーに望み、それがチームに、クラブ全体に伝わる。筆者の思い込みに過ぎないかも知れないが、今のクラブには、そういうエネルギーがみなぎっているように感じるのである。

一九八九年一月五日、京都府高校新人大会決勝トーナメント。一点を争う大熱戦となった。一つのプレーにスタンドが揺れる。土壇場一点を失った。全ての望みを託したシュートはゴールをはずれ……。そして、ここに新たな一ページが開かれた。(K)

記念パーティー

恒例の卒業記念パーティーが二月七日卒業式後、都ホテルで卒業生、父兄、教職員の参加のもと行われた。新聞局ではその模様を写真部のHⅢA田中和人さんに写真と共にレポートしていただいた。



先生方のいわれるところの「いい卒業式」の後バスで都ホテルへ。前評判では二時間程つまらない(こういっては失礼ですが)ス

病氣というものは、菌に感染しても発病しない潜伏期間が存在する。今このころ日本全国平和である。失業率も低く、人手不足の中、「デューグする」が流行語になっている。不景気だった17年前の「石油ショック」なんか、頭のかたすみにも残っていないかのごとくである。▼町の中を見渡してみると選挙だ何だとボスターが張られている。しかし、若い層の関心が今一つだという。「選挙に行かないなら、僕が代わりに」と。と秘かに思う今日この頃である。▼どうも今の平和は少し変ではないだろうか。街では変な新興宗教が大はやりしているし、その信者の中には全く政治などに関心で今の豊かさに満足しているはずの若い世代も多いときく。▼今の日本は病んでいるのかもしれない。一見豊かな安定の時期というのには単なる潜伏期間なのかも知れない。▼なんだかエラそうなことを書いてしまったが、自分にしてはもう、もう物質的には何となく暮らしている、政治的な事には無関心になりがちで、死んだらどうなるのか、インテリクさい超脱術みたいなものに興味をもつたりの。実は私自身病気のなかもわからない。▼もうすぐ我々が時代を担う時がくる。それにしてもあまりにも無気力な度すぎる。近ごろ「信長の野望」というゲームがはやっているが、ゲームでは天下を動かしても、実際の世の中では一部の人間の横暴を黙認して自らを表現しない▼第2次世界大戦はヒトラーの横暴で始まった。歴史はくり返しているというが、この病気の結末が見えてきたような気がする。

森脇先生、寺田先生、尾崎先生停年退職
ラトレイ先生、花房先生(ノ?)も御退職
洛星も創立以来40年近くになり毎年のように先生方が停年で退職される。しかし今年にはラトレイ先生が健康上の理由で、又洛星のOB教師の期待の星だった花房先生までも洛星を去られる。新しい学校での先生の活躍をお祈りします。



森脇先生

もう後一ヶ月の後に永い間慣れ親しんだ教室から去る時期にきました。

昭和27年新米の教師として授業をしたときから38年、その内洛星での期間が24年、初めに教えた生徒達も数えてみれば今は50歳を越える年令になったことに驚かされます。この間数学一筋で過してきたのだけれど、さて振り返ってみて自分の授業の仕方についてだけ進歩があったらどうかと考えると、多分にクエッション・マークをつけざるを得ない気持ちです。しかし人生、生涯が勉強とおもえばこの先暇を得、コッソリ心の充実を努めたいとおもっています。

別れてゆく諸君に君達は今、二度と来ぬ華やかな青春の時期にいます。この時期を大切に、勉学に運動に精一杯活動して、未来への心身の基礎を築いて下さい。自分には厳しく、他人には寛しい青年に育って欲しいと願っています。

洛星に思う

尾崎安男先生



寺田福子先生



昭和四十八年三月に職を奉じて、はや十七年の歳月が過ぎました。その間学校の会計も変更があり、補助金の増額と共に学校法人会計基準の制定により公認会計士の監査も義務づけられました。昨年からコンピュータも導入され、経理の大巾な合理化も実現しました。これも事務の方々の努力の賜ものと深く感謝いたします。



ジャック・ラトレイ先生

私立学校も生徒減少期にさしかかっていますが、皆様方の御卒業を心からお祝い致します。その私も、昭和36年3月以来28年、39年5月に現在の図書館誕生と共に25年、何とか無事に三月末には定年を迎える事となり、神が私に与えられた最高の贈りものであると感謝しています。資料を求める利用者に対するレファレンス、利用者の喜びが自分の喜びでもあり常に図書館という媒体を通して学ぶ事も多く、自己を高めることも出来る分にとってもこの上ない素晴らしい職場でありました。本と人を結ぶ仕事以上に、利用者の心のやすらぎの場に。最後に、「本が人をつくり、人が本をつくる」と云われます。良い本との出会いを大切に、将来にむかって先づ健康、そして御成功を祈ります。

退職するにあたって

花房克生先生



私はこの度、一身上の理由で洛星を退職することになりました。5年間という短い期間ではありましたが、皆さんとともに楽しい毎日が過ぎたことを感謝しています。校歌の中でも歌われている通り、洛星は平和なる学園です。皆さんは数々の点で恵まれた環境のもとにいると思います。勉強にせよクラブ活動にせよ、とにかく自分がしたいと思うことは存分にさせてくれる、そういう学校です。しかし、この自由な雰囲気は同時に怠惰な生活態度への凋落の危険性をはらんでいます。温室のような居心地のよさ、それは反面で向上心の喪失を招きかねません。望むべくは、この学園の中で目的意識を持ち能動的に生きてほしい。皆さんが多岐にわたる道を歩むのを折ってやみません。

私と洛星
連載
第四回「洛星中学の誕生まで」前校長 村田源次



1948年10月 第一陣のメンバー

「洛星中学の誕生まで」
一九四八年九月末日、約一ヶ月の船旅を終え、ドロレット神父と私は横浜港に着きました。港にはカリエー神父とメリノール会司祭、フルサカ神父が迎えに來られ、東京で一泊、翌日あこがれの京都に着きました。本部を設置するまで、三条カトリック教会でお世話になりました。その間、男子校の設立を要望されていた教区長様達に挨拶に行きました。

「本部設立」
候補として、鹿ヶ谷の藤井家で留置が住んでいたが、交通の不便さを考えて断りました。現在はノートルダム女学院になりました。オムニバスで、当時CIAの本拠地だった、中野区に在籍していた。幸い交通の便もよく、四方が道であり、隣家が遠く、理想の場所として北白川西町、現在の修道院・教会の場所を購入できました。靴のま、でも生活出来た。

「左大文字購入」
マクロブ神父のお陰で、奈良・大津・山科・伏見・比叡山麓、岩倉・嵐山・高槻方面まで探してきました。また現在の洛星中学(当時車庫)鴨中(当時堀も見)学致しました。私は当時の京都市教育長不破氏をお訪ね致しました。山地以外には学園用地はありません。このことでした幸い鐘山に左大文字を購入し、京大工学部建築教授に依頼して、ボーリングをして頂きました。先生の意見ではこの土地は風致地区であり、建築には規制があること、中高生のグラウンドが取れない等の指摘があり、探したのが現在の場所です。

「現在地購入」
一回目に京都に來られたホワイト神父が校長に、ナドウ神父を副校長として、庶務に中村伝先生(元四平等のウィアートル学園理事長)高校々長)京都で知ること

「学園設立の準備」
学校設立のため学校法人を寄付行為、就業規則、校務分掌規定等の作製が必要で、そのために六甲学院、南山学院、など先達校の指導、ご鞭撻を頂きました。校舎見学として洛北高校や、鴨津高校では特に図書館や、プールを参考に見学致しました。

「職員構成」
一回目に京都に來られたホワイト神父が校長に、ナドウ神父を副校長として、庶務に中村伝先生(元四平等のウィアートル学園理事長)高校々長)京都で知ること

「学園設立の準備」
学校設立のため学校法人を寄付行為、就業規則、校務分掌規定等の作製が必要で、そのために六甲学院、南山学院、など先達校の指導、ご鞭撻を頂きました。校舎見学として洛北高校や、鴨津高校では特に図書館や、プールを参考に見学致しました。

「職員構成」
一回目に京都に來られたホワイト神父が校長に、ナドウ神父を副校長として、庶務に中村伝先生(元四平等のウィアートル学園理事長)高校々長)京都で知ること

「学園設立の準備」
学校設立のため学校法人を寄付行為、就業規則、校務分掌規定等の作製が必要で、そのために六甲学院、南山学院、など先達校の指導、ご鞭撻を頂きました。校舎見学として洛北高校や、鴨津高校では特に図書館や、プールを参考に見学致しました。



ホワイト神父

「職員構成」
一回目に京都に來られたホワイト神父が校長に、ナドウ神父を副校長として、庶務に中村伝先生(元四平等のウィアートル学園理事長)高校々長)京都で知ること

「学園設立の準備」
学校設立のため学校法人を寄付行為、就業規則、校務分掌規定等の作製が必要で、そのために六甲学院、南山学院、など先達校の指導、ご鞭撻を頂きました。校舎見学として洛北高校や、鴨津高校では特に図書館や、プールを参考に見学致しました。

「卒業生訪問 ⑤ 寺谷一紀さん (NHK大阪放送局)」
今回は26期生の寺谷一紀さんを大阪のJOBKにお訪ねした。
26期はどんな感じの学年でしたか?
非常に、何というか出来のよくない学年といわれていましたね。
腹立ちませんでしたか?
何かやろうという団結心は欠けていたけれど、やんちゃが多く、そのやんちゃがリーダーでしたね。
大阪外大からNHKに進まれたわけですが、大外大へは洛星から進む人は少ないです。卒業間際まで卒業アルバム製作とクラブ活動にうち込みました。文化系で好きな外国の歴史をやること(関西で、行く大学も限られてくる)という浪人してまで……という気持ちでね。この外大という

「NHKを選ばれたのはなぜですか」
民間は資本の関係で妙なクッションが入ってきますが、NHKでは自分のやりた事がすぐ媒体に乗って出て行き反響が返ってきます。そこに魅力を感じたのです。

「現在のお仕事は」
自分でも番組企画制作するプロデューサーで、なかなか実際にロケにも行っていない。編纂までやり、ナレーションを書いたり、実際に自分が出演してしゃべったりもしています。入口から出口まで一貫して面倒を見る。これをプログラムディレクターといいますが、僕にとってはこ



「学生時代を振り返って」
後悔する事がありますか?
もう少し勉強しておけば良かった。まず語学ね。

「NHKを選ばれたのはなぜですか」
民間は資本の関係で妙なクッションが入ってきますが、NHKでは自分のやりた事がすぐ媒体に乗って出て行き反響が返ってきます。そこに魅力を感じたのです。

「現在のお仕事は」
自分でも番組企画制作するプロデューサーで、なかなか実際にロケにも行っていない。編纂までやり、ナレーションを書いたり、実際に自分が出演してしゃべったりもしています。入口から出口まで一貫して面倒を見る。これをプログラムディレクターといいますが、僕にとってはこ

「学生時代を振り返って」
後悔する事がありますか?
もう少し勉強しておけば良かった。まず語学ね。